

春満開！

武蔵野市の桜を楽しもう

武蔵野市内に桜の名所が多数あるのをご存じですか。桜の花に彩られたこの季節だけの街並みを、目いっぱい楽しみましょう。



いつもとは違う花見で
市内の春を感じてみよう

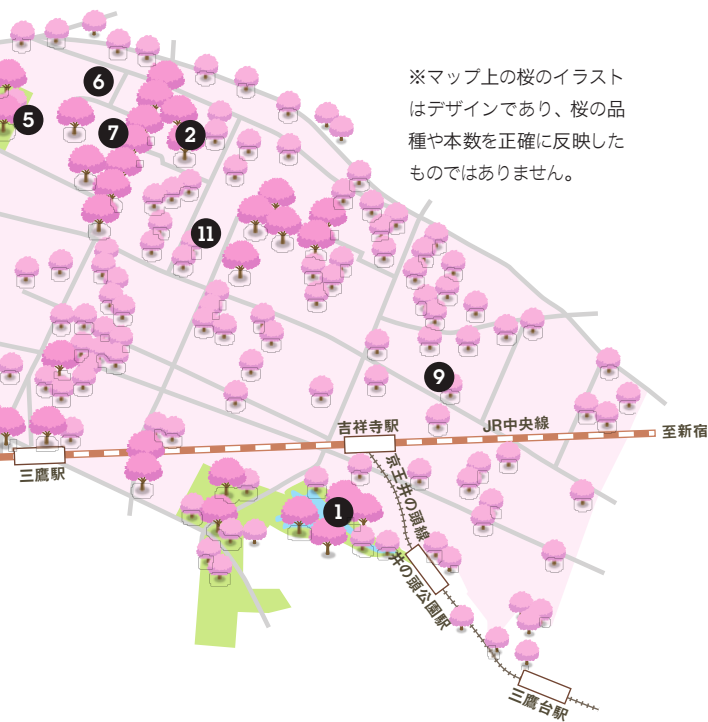
冷たく乾いていた風が湿り、草花の香りを運び始めました。もうすぐ桜の季節です。

武蔵野市を含む多摩地域は、例年3月24日～28日にかけて桜が開花し始め、4月上旬に満開を迎えます。昨年は早くから暖かくなつた影響で3月21日頃から開花が始まり、4月2日頃に満開になりました。今年はどうなるでしょうか。

井の頭恩賜公園の桜は「日本さくら名所100選」にも選ばれ大変有名ですが、武蔵野市にはほかにも桜の名所が多数あります。

さて、今回紹介する名所の中で、皆さんが花見をしたことがある場所はいくつあるでしょうか？満開の期間が短いだけに、花見もつい慣れた場所です済ませてしまいがちですが、たまには市内のまだ見ぬ桜景色を求めて、いつもと違う場所に足を運んでみるのも良いかもしれません。

※マップ上の桜のイラストはデザインであり、桜の品種や本数を正確に反映したものではありません。



たくさんの方が集まる桜の名所

① 井の頭恩賜公園 (武蔵野市・三鷹市)

「日本さくら名所100選」にも選ばれている井の頭恩賜公園には、さまざまな品種の約500本の桜が園内各所で花開きます。七井橋からは池を覆うように広がる桜を楽しむことができるほか、夜にはライトアップされ、光に揺れる水面と夜桜の神秘的な光景が広がります。

意外に穴場なのが隣接する自然文化園。こちらにも品種さまざまな桜で園内が彩られます。あくまで動物園なので「宴会」の花見はできませんが、その分、ゆったり落ち着いた花見を楽しむことができます。





地域全体が
春の装いいっぱい

3 桜堤・仙川周辺

美しい桜並木と、平成10年以降再整備によって豊かになった仙川の水辺が交差し、春をこの地域全体で感じることができます。



日々の通勤・通学で感じる季節変化

4 境南通り

武蔵野プレイスに隣接する境南ふれあい広場公園から、ケヤキとイチヨウの並木、そして桜並木へと、気持ちよく連続的につながる街路樹のトンネルが見所です。

グラウンドを囲う桜が見どころ

2 武蔵野陸上競技場

例年3月下旬頃から、陸上競技場をぐるりと囲む芝生スタンドが無料開放され、満開の桜を楽しむことができます。空が開けた視界の良さと芝生斜面のゆったりした心地良さが人気で、ファミリーやグループの花見客で連日大変にぎわいます。



中央通りから連なる桜のトンネル

6 NTT武蔵野研究開発センタ周辺

空がさわやかな桜色に感じられるほど、たくさんの桜が施設周辺を取り囲んでいます。また、「武蔵野桜まつり」に合わせ、NTT技術史料館の特別公開と敷地内の桜並木の一般開放が行われます。ウェブサイトなどからチェックしてみましょう。



それぞれのスタイルで楽しむ花見

5 武蔵野中央公園

シートを広げてお弁当を食べたり、体を動かしたり、思い思いのスタイルで広大な芝生を楽しめるのが特徴です。3～11月は、予約すればバーベキューも楽しめますが、申し込みはお早めに。

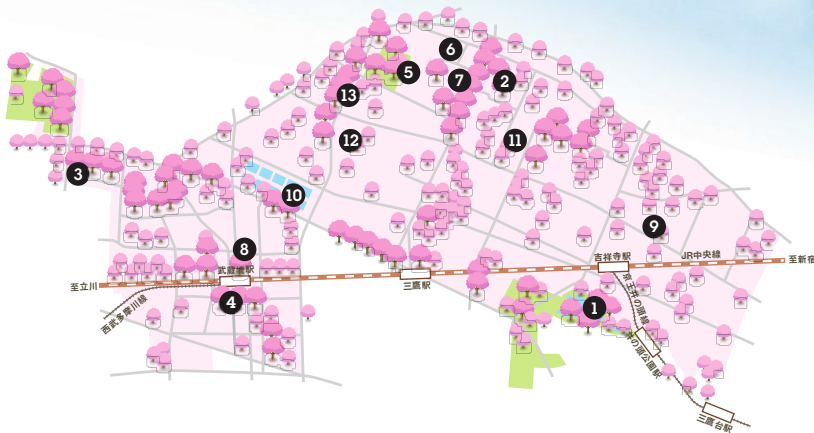


桜のトンネルは
一見の価値あり

7 市役所周辺

武蔵野中央交差点から北へ、中央通りに沿ってトンネルのように続く桜並木は市内を代表する桜の名所です。およそ200本の桜が、満開の時期にはライトアップされ、夜と昼とで別の美しさを披露。また、「武蔵野桜まつり」では、付近でさまざまな催し物も開催されます。

スマートフォンやタブレットで二次元コードを読むと、中央通りの桜をドローンで撮影した映像をご覧いただけます。



水辺と緑豊かな関前公園は、池に散る桜をのんびりと眺めるのに最適。桜のほかにもさまざまな植物や生き物が生息していて、全身で季節を感じられる場所です。

桜とともに歩んだ歴史が
垣間見える

8 武蔵境駅北口 ロータリー

武蔵境駅の北口ロータリーの整備とともに4種の桜が植樹されました。かつて玉川上水の花見でにぎわった駅の歴史を踏まえ、地域の要望も取り入れて植えられたものです。いずれも遅咲きで、4月中下旬から花を咲かせます。



市民と一緒に作り上げた桜景色

9 吉祥寺の杜 宮本小路公園

ワークショップなどを通じて地域住民とともに整備したこの公園では、木立の中をくぐり抜けるように園路を歩いて、山桜の大木と枝垂桜の花を楽しむことができます。

安全で美しい景色を

桜は華やかなだけでなく、卒業や入学・入社といった人生の節目とも重なって、思い出を飾る特別な花。校庭や、通学・通勤の道に色づく桜の景色は、まちの記憶として人々の心の中に残ります。

市内でも早くから緑のまちづくりを進めてきた武蔵野市には、至る所に桜並木があり、春を知らせる景観として近隣の住民に親しまれています。一方で、歴史のある桜が多いため、一部の木は老木化し、風が強い日には枝が折れる恐れなども増えてきたようです。

桜の寿命は、60年程度とされませんが、例えば中央通りには寿命に近い樹齢約60年程度の老木が多数あります。そこで、平成18年度以降は樹木医による街路樹診断を進め、必要な場合には、伐採や新植工事も実施して美しい桜並木の景観を守ってきました。

桜の美しさを長く引き継いでいくために、市は街路樹などの樹木診断とともに、民家や集合住宅の敷地内における樹木の維持管理の支援なども行い、美しい緑の景観の保全に努めています。



桜橋など見どころ
多数の散歩道に

10 玉川上水 緑道

福生市の平和橋から市内を抜け、杉並区の浅間橋まで続く玉川上水緑道には多数の桜や榎が植えられ、風情豊かな散歩道になっています。



武蔵野の自然と調和した
桜の美しさ

11 木の花小路 公園周辺

昔の里山の雰囲気を伝える自然公園。地域の保存樹木の大きな木や竹林とともに、桜も自然なたたずまいで緑ある風景に溶け込んでいます。



景色の奥まで延びる
桜並木の道

13 伏見通り

関前橋の交差点から南へ、市内の通り一帯がずっと桜並木と続いています。満開の季節には美しく長い桜の道を味わえます。



やさしい木陰と水辺で桜を楽しむ

12 関前公園

4/1 第26回 武蔵野桜まつり

「住んでよかった ふるさとは武蔵野」をスローガンに、平成5年から続く春の行事です。今年は4月1日（日）の午前10時～午後4時にかけて、市立むさしの市民公園、緑町スポーツ広場、武蔵野陸上競技場ほかで開催します。

式典、子ども向けのアクションショー、友好都市による物産販売、商店会連合会会員による緑日広場、市無形文

化財「むさしのばやし」、何でも発表ショー、中央通りでのパレードと夜のライトアップなど、多数のイベントを予定しています。

また、近年は成蹊学園のイベントも同時期に行われるなど、周辺の催事とともに、市内の春の一大行事に成長しつつあります。4月の第一日曜日とその前後の日程は、ぜひ市内で桜を楽しむ各種イベントにご注目ください。



ライトアップされた桜のトンネルが浮かぶ中央通りの様子。

まちで見かける 桜

桜に詳しいハンドブックやウェブサイトなどを見て、調べながらまちを散策してみるのも面白いでしょう。



● ウコン (鬱金)

花弁にも葉緑体を含み、桜ではとても珍しい淡黄色の花が特徴です。開花は4月中旬頃で、武蔵境駅の北口ロータリーで見ることができます。



● ソメイヨシノ (染井吉野)

国産の園芸種。上品な白色と、葉より先に花が一斉に開く華やかさが人気で、ほかの品種の桜より非常に多く植えられています。開花は3月末頃です。



● カワヅザクラ (河津桜)

ピンク色の花が愛らしい早咲きの桜です。2月頃から開花し、およそ1カ月間かけて満開になります。中央通りさくら並木公園でも早い春を知らせる花として人気です。



● ジンダイアケボノ (神代曙)

調布市の神代植物公園で発見された桜です。ソメイヨシノの系統で、ほぼ同じ時期に開花し、花の形もよく似ています。桜通りに植えられています。



● アマノガワ (天ノ川)

細い枝が上向きに伸び、上向きの花が4月中下旬に咲きます。樹形全体が円筒形になり広がらないので、街路樹としても扱いやすく人気が高まっています。



● シダレザクラ (枝垂桜)

長く柔らかい枝が枝垂れる姿が特徴的で、見分けやすい桜です。3月下旬頃、ソメイヨシノのより少し早く開花し、流れ落ちる滝のように咲き誇ります。

● イチヨウ (一葉)

直径5cmの大輪も咲かせる八重桜で、4月中旬頃に開花します。花の中心から葉の形に見える雌しべが突き出ているため「一葉」と呼ばれます。



毒々しいけど害はない幼虫

夏の桜に集まる毛虫を見たことはありませんか。桜などバラ科の植物を好むモンクロシヤチホコという蛾(が)の幼虫です。若齢の幼虫は赤褐色、老齢の幼虫は紫黒色の体に黄色い毛が生えグロテスクですが、人間にはまったく無害です。ほとんど駆除も必要ない生き物なので、見かけてもそっとしておきましょう。



色も時期もさまざまな桜
桜といえばソメイヨシノが有名ですが、まちの中にはさまざまな品種の桜が咲いています。実際には、枝の高さや植場所などの条件によって同定が難しいものも多数ありますが、いくつかの品種を知っていると、その開花時期や咲き方の違いをよりいっそう楽しめるかもしれません。皆さんのお気に入りの花はどんな桜でしょうか。



武蔵野市の豊かな 緑と水を守る取り組み

春の桜、夏の緑、秋の紅葉など、季節の移り変わりを感じられる自然は暮らしに潤いを与えます。
緑は市民の共有財産です。武蔵野市らしさを実感できる質の高い緑を育て、
維持するため、緑のまち推進課ではさまざまな取り組みを行っています。

生活に身近な緑を育む

公園や公共施設、学校などの緑を充実させ、緑の豊かなまちづくりを進めています。仙川の自然性が高い水辺空間の再生などにも取り組んでいます。

仙川は市内でただ一つの一級河川です。コンクリートで固められたつくりを再整備し、自然な川に近く親しみやすい護岸に改修しました。



今ある緑を未来に伝える

緑豊かなまちを未来に残すには、新しい緑を植えるだけでなく、それぞれの地域が育んだ自然を無理なく維持し、守ることが大切です。緑の維持管理と保全のためさまざまな取り組みを行っています。

街路樹などの維持管理はもちろん、民家の保存樹木に対して樹木医を派遣するなど、民有地の緑の維持にも努めています。

市民と共に緑の充実を図る

市内の緑地面積の約6割は民有地の緑であり、緑を守り育てるには、市民との協働が不可欠です。「緑ボランティア団体」への支援や「緑の保全サポート制度」などを通じ、地域全体で緑を大切にします。



緑ボランティアでは、公園の維持管理などの活動のほか、各公園に親しみ、緑を楽しめるイベントや講演会を実施しています。

平成28年に始まった「緑の街並み高め隊」は地域の生け垣の刈込みなどを通じ、市民が緑豊かな街並みづくりに参加する取り組みです。

